

行政事業レビューシート (厚生労働省)

予算事業名	エイズ研究センター経費	事業開始年度	昭和63年度	作成責任者		
担当部局庁	国立感染症研究所	担当課室	総務部会計課	課長 星野 真		
会計区分	一般会計	上位政策	-			
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-	関係する計画、通知等	-			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	エイズワクチン開発や遺伝子治療を目指した基礎応用研究で、さらに国内薬剤耐性ウイルスの発生動向把握と感染診断基盤システムの整備及び途上国へのエイズのウイルス診断検査技術の普及等を図る					
事業概要 (5行程度以内。別添可)	HIV感染診断基盤システムの整備・確立、生検・剖検例の病理検査、HIV感染の分子遺伝子学的研究、エイズのウイルス感染診断検査技術講習等を行っている。					
実施状況	国内薬剤耐性ウイルスの発生動向の把握と対応基盤を整備している。また感染診断キットの検定を目的に国内感染血清からなる標準パネルを整備した。一方、感染診断検査技術講習を行い、UNAIDS(国連合同エイズ計画)から高い評価を得た。					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	77	73	73	58	51
	執行額	77	72	72		
	執行率	100.0%	98.6%	98.6%		
	総事業費(執行ベース)	77	72	72		
自己点検	支出先・用途の把握水準・状況	当事業で整備した国内感染血清からなる標準パネルは超低温フリーザーにて保管し、新規HIV感染診断キット承認前試験申請時に配布し迅速な審査に益することになる。また年々進歩するHIV感染診断技術を反映して国際研修テキストも適時改訂して研修生および研修参加講師等に配布しており、そのために印刷製本費は外注せず高度印刷機能を有する複合機を導入して対応している。				
	見直しの余地	標準パネルを保管している超低温フリーザーは中央監視でモニタリングして最適な保存管理に努めている。また国際研修テキストの構成を見直し、両面印刷などの利用によりコスト削減に努め、さらに配布部数を的確に把握し配布総数を随時見直す。				
予算チームの・所見率化	一部改善(事業を一部見直し、概算要求に反映) 執行の観点からは概ね妥当であるが、事務費について精査を行い、効率的な執行に努めること。					
補記						

国立感染症研究所  
72百万円  
エイズ研究センター経費



【随意契約】

A. 日立キャピタル  
0.66百万円  
超低温フリーザーの賃借料

【随意契約】

B. リコー販売  
0.94百万円  
複写機の保守・消耗品等料

うち事務費70百万

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を  
行っているか  
について補足  
する)  
(単位:百万円)

